

災害精神支援学講演会

福島県南相馬市でのコミュニティ・メンタルヘルスについて

福島県南相馬市は、2011年3月の東日本大震災で地震・津波による大きな被害を受けたことに加え、原発事故の影響で市内が発電所から20km圏内の警戒区域、20km～30km圏内の緊急時避難準備区域、さらに30km圏外に分断された。避難生活が長期化していること、地域にさまざまな分断や葛藤が生じたことは、地元住民のリジリエンスを損ない、震災関連死の増加や、認知症や慢性疾患の悪化、子どもの発達遅れなどが報告され始めている。これらは短絡的に放射線の影響と結びつけずに、総合的な判断がなされるべきである。また災害は地域や個人が元来抱えていた若者の流出と高齢化という課題も顕在化させた。講師は、震災後に南相馬市では唯一診療を再開した精神科病院である雲雀ヶ丘病院での診療の傍ら、地域のメンタルヘルスの向上を課題とするNPOを立ち上げた。その経験を通して、災害後の地域のリジリエンス向上を目指した精神医療のあり方について提言する。

日時：平成26年5月15日（木）
13時～15時
場所：医学系学系棟7階談話室723
対象：筑波大学教職員、学生、
その他医療関係者



講師略歴 堀 有伸（ほり ありのぶ）先生

現職：公益財団法人金森和心会 雲雀ヶ丘病院 副院長

NPO法人 みんなのとなり組 代表理事

平成9年 東京大学医学部医学科卒業

平成13年 東京大学医学部附属病院精神神経科助手

平成20年 帝京大学医学部附属病院精神神経科助手

平成24年 福島県立医科大学災害医療支援講座助手（特任助教）

問い合わせ：筑波大学災害精神支援学(TEL 029-853-3057)